

令和3年度 府立桃山高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○文武両道・自主自律の校是のもと、学習と部活動の両立を図り、知・徳・体の調和のとれた創造性あふれる心豊かな人間の育成を目指す。</p> <p>○SSH3期目の指定のもと、SSHを本校の中核的な取組とすることで、教育活動の充実を図り、資質・能力「5C」(*)を身に付けた、次世代社会を創造し牽引するグローバルサイエンス人材の育成を目指す。</p> <p>○公立高校の中核校として、次代を担う人材の育成を図るとともに、府民の期待に応える学校づくりを推進する。</p> <p>○新学習指導要領を踏まえた教育活動を推進する。</p> <p>*5C 本校では、グローバル化とサイエンスの発展が重要となる次世代社会において、国際的に活躍し得るグローバルサイエンス人材に必要な資質・能力を、以下の5項目として育成を目指している。</p> <p>①Critical thinking and problem solving（批判的思考力と問題解決） ②Creativity and innovation（想像力と革新） ③Collaboration（協働力） ④Communication（コミュニケーション力） ⑤Challenge（挑戦力）</p>	<p>(1) 「自主自律」ワンランク上の「文武両道」など、本校の特色や教育理念、またSSH3期目の指定校としての取組等を中学生・保護者に伝え理解を得て、前年度に引き続き、学習意欲が高く本校の様々な取組に高い関心のある入学生を迎えることができた。今後は、入学してきた桃山高校生・保護者の期待に応えるべく、これまでの成果の上に立った、さらなる高みを目指した教育活動を展開していきたい。</p> <p>(2) SSH事業において、普通科・自然科学科とともに、GS課題研究の充実が図られるなど、探究的な学びが進み、その成果が着実に次世代で活躍する人材としての資質・能力の育成につなげることができている。今後は、3期計画の実践を着実に進め、SSHを学校の文化として定着させていきたい。</p> <p>(3) 組織的な教科指導や進路指導の実施に努め、進路実現に向けて、学校全体で最後まであきらめない指導を行えた。結果、国公立大学や私立の大学に、多くの生徒が現役合格でき、難関大学へも積極的にチャレンジしてくれた。今後は、生徒の学びの志向性にさまざまな刺激を与え、より高みを目指す進路目標にも積極的にチャレンジできるような組織体制の確立や、生徒の意欲に火をつける学習・進路指導を継続していきたい。</p> <p>(4) 新学習指導要領や新しい大学入試制度に対応するため、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善、記述力や英語の4技能の向上に向けた取組など、組織的に計画的に取組を推進することができた。今後は生徒の多様性に目を向けた、「個別最適化した学び」の構築や、学びにおけるICTの利活用を進めていく必要がある。</p>	<p>(1) 「主体的学習者」の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善、学びにおけるICTの利活用、生徒の多様性に目を向けた「個別最適化」した学習指導等の研究・実践を進め、桃山高校の学びのデザイン再構築を行う。</p> <p>(2) より高みを目指す進路目標にも主体的・積極的にチャレンジできるような組織体制の確立や、生徒の意欲に火をつける学習・進路指導を継続して展開する。</p> <p>(3) SSH3期2年目である今年度も、「資質・能力5Cを身に付けた、次世代社会を創造し牽引するグローバルサイエンス人材の育成」という目標を、教育活動全体に落とし込み、全校体制で実践していく。</p> <p>(4) 生徒が主体的に「夢・感動・挑戦」の舞台を創り上げることができるような「学校行事」の検討や、生徒が自ら高みに挑戦することによって実現する「高いレベルでの文武両道」への仕掛け作りを行っていく。</p> <p>(5) 教職員自身が桃山高校生にとってのロールモデルとなることを目指し、桃山高校働き方改革を進め、生徒にとっても教職員にとっても魅力ある学校を作る。</p> <p>(6) 感染症拡大に伴う教育への影響が長期化する中、衛生管理をしっかり行い、安心・安全な学習環境を確保するとともに、学校における学びの経験を保障する観点も大切にして、一つ一つの教育活動を再点検しながら学校運営を行っていく。</p>

領域	重点目標	具体的方策
教務部	「主体的学習者」の育成のための教育活動や授業改善の取り組みを支援するとともに、適切な評価のあり方について研究する。	公開授業などを通じて「個別最適化」した指導や課題の工夫を、教科をこえて共有する機会を設ける。 観点別評価の導入に向けて、教科主任会において問題提起や提案を行う。
生徒指導部	生徒が主体的に「夢・感動・挑戦」の舞台を創り上げることができるような「学校行事」の検討や、生徒が自ら高みに挑戦することによって実現する「高いレベルの文武両道」への仕掛け作りを行っていく。	体育的行事において、生徒会を中心に、生徒全員の創意工夫を生かした自主的な取り組みを行い本校のよき伝統を継承させ、生涯にわたってスポーツを楽しめる能力や態度を培う。 文化祭において生徒一人一人の自主性を養い、HR・部活動・生徒会の活動を充実させ、自主的集団として成長させることを目的とする。 部活動への積極的参加を促し、加入率の向上と活動実績の広報活動を行う。
進路指導部	ICT機器を活用した体系的なキャリア教育体制を構築し、早期から生徒の進路意識を高め、希望進路実現に向けて意欲的に学習に取り組む仕掛け作りを行う。	進路学習においてBYODを取り入れた職業・学部・学科研究を行う。 マナビジョンポートフォリオ機能を活用し、学校内外の「日常の記録」を入力することを習慣化させる。 ICT機器を活用した進学補習やキャリアアカウンセリングを行うことで生徒の進路意識を高めるとともに学習に対する意欲に火をつけ、学力を伸長させる。
教育企画推進部	「主体的学習者」の育成に向けて、「個別最適化」した学習指導等を実践するために、ICT環境を整備し、利活用を図る。 「資質・能力5Cを身に付けた、次世代社会を創造し牽引するグローバルサイエンス人材の育成」という目標を教育活動全体に落とし込み、SSH3期2年目の事業を全校体制で実施する。	ICT機器の整備、使用基準の作成、研修会等を実施する。 SSH3期申請内容に基づいて令和3年度事業計画の取組を実施し、効果検証と成果普及を行う。
保健部	校内美化を徹底すると共に生徒の環境美化意識を高め環境保全能力を向上させる。	『前日より美しく』をモットーに日々の清掃活動に取り組ませる指導を徹底する。月1回の大掃除の際には、教室及び廊下の壁に付着した埃や窓の蜘蛛の巣を取り払う作業を学年ごとに実施する。 美化・保健の両委員会のそれぞれの活動を充実させ、校内学習環境の衛生管理について維持向上の意識を全校的に啓発する。 安全点検を学期ごとに実施して、事務部と連携して改善する。
図書部	「5C」を身に付けた人材の育成、「主体的学習者」の育成に必要な桃山高校の「学び」を探究する。	図書委員による自主的、積極的な図書館運営(班活動、読書月間における各種行事の立案と実践など)を行う。 課題研究をはじめとする各授業での図書館の活用や読書感想文集の発行、教職員の図書推薦などの様々な仕掛けを試みる。 主体的学習を促進する図書を充実させるとともに生徒に向けて紹介する。
第1学年部	人とのつながりを大切に、協働して取り組むことで共に成長し合える集団を作る。その中で、生徒たち1人ひとりの他者を尊重する心や自己肯定感を育む。	各担任は生徒たちの思いを聞き出すことを大切にする。そうすることで、生徒たち1人ひとりに相談することの重要性と話を聞く姿勢の大切さを実感してもらい、生徒たちのつながる力の成長を促す。 学校行事、LHRを学年/学級集団がさらに成長するための機会であると捉え、ポートフォリオや学年通信を通じて他者の視点からも行事を振り返ることで、学年/学級集団への帰属意識を高める。さらには、ポートフォリオや学年通信を、他者の視点を意識した上で1人ひとりが自らの行動を振り返りできる機会として捉えさせることで自身の成長へとつなげる。 様々な教育活動を通して、生徒1人ひとりが自らの適性・能力などに気づき、主体的に進路選択ができるような指導を充実させる。
第2学年部	価値観の多様性を通して、自尊尊重の精神や主体性を育み、自己を確立しながら共に成長し合える集団を作る	GS探究Ⅱ、LHR、学年集会、学校行事、学年通信等を連動させて、個々の生徒の見方・考え方を学年全体で共有し、価値観の多様性に気づかせる。レポートやポートフォリオ、手帳等を活用し、内省する習慣を身につけさせる。 進路実現までの2年間に見通しをもたせ、長期的な学習を意識させる。サタスタや模試等を活用し、節目ごとに目標を立てさせたり、自己分析を行わせたりすることで、主体的な学習行動を促す。 教員はそれぞれの人となり大切に、生徒一人一人の内面と深く関わりながら、日々の声掛けや個人面談、レポートや手帳へのコメントなどを行い、夢や憧れを共有する主体的学習者のサポーターを目指す。学級や個々の生徒の状況を日常的に交流・共有し、副担任も含めて複数の教員が多角的に生徒と関わる。
第3学年部	すべての生徒が希望する進路を実現できるよう、自分の個性を生かし、主体的に学習に取り組む資質や能力を伸長するための指導を継続的に行う。	個々の生徒との対話を重視し、心身の状態を的確に把握するため、手帳の活用や、個人面談を基軸とした指導を展開する。
事務部	限られた予算を効果的に運用し、安心安全を最優先に予算編成を行う。	安心・安全に向けた設備・施設の整備。 時代の変化に合わせたスムーズな予算の運用

領域	重点目標	具体的方策
国語	国語で的確に理解し伝え合う力を高め、思考力、判断力、表現力を伸ばす。そのために、「主体的・対話的で深い学び」を通して、主体的学習者を育成する。	「主体的・対話的で深い学び」の授業スタイルを通して、ICTを活用した研究・実践を進め、技術や方法を共有し、「チーム国語科」として効果的な指導を行う。 生徒の多様性に対応できる「個別最適化」した学習指導を行うことによって、主体的に学習を進めるための具体的方法と考え方を身に付けさせる。
地歴公民	興味・関心と学習意欲を高め、自ら学ぶ力、考える力を育成する。	板書、プリントを充実させ、資料（写真、統計、史料等）や視聴覚教材を有効に活用する。 ICTを活用した授業やアクティブラーニングの授業を研究・実践し、「主体的・対話的で深い学び」による思考力・表現力等の育成を図る授業改善に取り組む。
数学	学習意欲の向上を背景とした自発的学習習慣の形成の実現と数学的、論理的思考力の獲得を通して、実践問題に取り組む学習者を育成する。	小テスト、定期考査、模擬試験の到達度目標を早期に提示することで、学習計画の作成を習慣化させる。目標へ到達する過程においては、個々の生徒の学習方法等を生かすように工夫する。また、習熟度の高い生徒向けに数学検定を中心として、数学オリンピックや数学コンテストへの参加を促し、授業とは違う観点で数学に触れる機会を増やす。 深い学びにつながる発問、視覚的教材の工夫を今年度も継続して行う。また、提出されたレポート形式、記述形式の添削課題を、ICTを利用して、生徒への共有を図り、数学的、論理的思考力を洗練させる。 新指導要領に向けて、指導計画・評価計画の確立と教科内での共有化を図る。
理科	見通しをもった観察・実験の実践など科学的に探究する活動の充実などにより、興味関心を高め、主体的学習者の育成及び学力向上につなげる。	探究的な観察実験の充実を図る。 パフォーマンス課題を用いた評価方法を開発・検討する。 主体的な学習を促す指導方法や実践内容を共有する。
保健体育	体育・保健の見方・考え方を働かせて課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。	具体的な知識と汎用的な知識とを関連させて理解できるようにするとともに、科学的知識を基に技能を身に付けたり、技能を身に付けることでその理解を一層深める等、知識と技能を関連させて指導する。 自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的に解決したり、新たな課題の発見につなげたりすることができるよう知識を活用したり、応用したりして、思考し判断したことを、根拠を示したり他人に配慮しながら、言葉や動作などで即座に表したり、図や文章及びICT機器等を利活用して筋道を立てて伝えたりすることができるよう指導する。 愛好的態度及び健康・安全、公正、協力、責任、参画、共生について、汎用的な知識を関連させて指導することで、主体性を促し、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力を育成する。
芸術	音楽：新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導の徹底を図るとともに、本校生徒の実態に即した授業展開の工夫に努める。 美術：5Cの育成を目指した授業を組み立てる。 書道：書に親しむ活動を通して、感性を高め、書写能力の向上を図り、主体的な学習者の育成に向けた授業展開を行う。	主体的に音楽に関わり、感受する力を育成するため、表現、鑑賞のそれぞれの学習内容について、批評活動を積極的に取り入れる。 共同制作やグループ内のディスカッションの活動を積極的に取り入れた授業を組み立てる。 作品の校内展示や学校の諸活動と連携した取り組みを進め、美術やデザインと社会の関係性について考えたり、客観的な視点で自分の表現を見つめさせる機会とする。 基礎・基本を身につけ、「表現」、「鑑賞」の学習内容に、批評活動を積極的に取り入れた授業展開を行う。
英語	英語学習における「主体的学習者」を育成する。	授業、家庭学習を通して、主体的に英語力向上に取り組めるよう、1年間の学習計画と効果的な学習方法を明確に示す。 教員による解説を簡潔にし、ペア・グループワーク、パフォーマンステスト等を通して生徒の英語の発話量・読解量・活動量を増やす。 従来から続けているパフォーマンス課題をさらに推進し、課題内容と評価の改良に取り組む。具体的には、第二学年を中心に、従来のスピーキングによるパフォーマンス課題を即興応答、ディスカッション、リテリング式に変える。
家庭	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	講義や実習・実験を通して、家族の健康と衣食住についての知識を身に付けさせ、実践する力を育てるように指導する。また、清潔に衣服を管理し、時には取れたボタンをつけ補修する程度の力を育てるため、被服製作実習を取り入れる。 消費生活について、経済のしくみを理解し、生活を管理できるように指導し、ロールプレイなどを行い、消費行動が環境問題に関わることを理解を深める。 乳幼児と高齢者の生活や福祉についても、ライフステージごとの心身の変化を「シニア体験」「マタニティ体験」実習により理解を深める。
情報	ICTを適切かつ効果的に活用し、自己調整しながら主体的に学習をすすめることのできる資質・能力の育成を図る。	ICTを活用して資質・能力5Cの育成を図るアクティブラーニングを取り入れた授業を日常的に実践する。 パフォーマンス課題のルーブリックによる評価を十分に取り入れ、適切な観点別評価について実践的に研究する。
グローバルサイエンス	教科間、または大学や外部との連携を通して、予測不能な時代で活躍するのに必要な資質・能力である「5C」の育成を図る。	第1学年の各GS科目の評価方法において、適切なパフォーマンス課題及びそれを評価するためのルーブリックを作成し、運用する。 第2学年のGS探究Ⅱにおいて、いずれの研究テーマでも共通する探究の過程を重視したカリキュラムを構築、実践する。